



INCORPORATED EDUCATIONAL INSTITUTION GUIDE

学校法人
芝浦工業大学

概要
2024



社会に学び、社会に貢献する 技術者の育成

芝浦工業大学の源は、1927（昭和2）年、有元史郎が創設した東京高等工商学校です。有元史郎が唱えたのは「現代文化の諸相を教材とし、社会的活動の意義を体得する教育」でした。この実学主義的教育により、実用的な知識と技術を併せ持ち技術立国を担う技術者、さらに高い倫理観と豊かな見識を備えた優れた技術者の育成に取り組み、社会の進歩発展に貢献してきました。これからも芝浦工業大学は、日本だけでなく海外との交流を通じて広く世界に学び、国際社会に貢献する大学としてグローバルな教育・研究力を発揮し、社会の期待に応えています。

芝浦工業大学は2027年に創立100周年を迎えます

100th
芝浦工業大学
100th ANNIVERSARY
Established 1927
世界に学び、世界に貢献する

芝浦工業大学は、2027年に創立100周年を迎える。しかし、ものづくりの大学が、歴史をつくることで満足してはいけない。ここで満足したら、世界を満足させることはできないのだから。最先端の研究を。その社会実装を。問題解決に貢献できる技術者の育成を。建学の精神である「社会に学び、社会に貢献する」。その視野をさらに広げ、芝浦工業大学は、「世界に学び、世界に貢献する」ことを目指していく。2027年は、きっと、新未来元年になる。



創業者

有元 史郎
(1896—1938)

有元史郎は、1923（大正12）年、苦学の末に東京帝国大学（現 東京大学）工学部機械工学科を卒業。引き続き同大学経済学部に入學して経済学を学びました。向学心が強く、工学、経済学のほかにも、法学、文学、商学を修め、合わせて5つの学士号を取得しました。弱冠30歳、東京帝国大学の大学院生のときに東京高等工商学校を創立し、芝浦工業大学の礎を築きました。

学校法人 芝浦工業大学 沿革

1927 ▶ 昭和2年

東京府荏原郡大森町に東京高等工商学校設立（創立者 有元史郎）。その後、芝区（現港区）芝浦町に移転

1943 ▶ 昭和18年

財団法人東京高等工商学校を設立（3月）。財団法人芝浦学園と名称変更（10月）

1949 ▶ 昭和24年

芝浦工業大学を設置、工学部機械工学科、土木工学科を開設

1950 ▶ 昭和25年

芝浦工業短期大学を設置（その後、1983（昭和58）年に廃止）

1951 ▶ 昭和26年

学校法人芝浦学園に組織変更

1953 ▶ 昭和28年

学校法人鉄道育英会を吸収合併。東京育英高等学校（現芝浦工業大学附属高等学校）の経営を継承

1962 ▶ 昭和37年

学校法人芝浦工業大学と名称変更

1963 ▶ 昭和38年

大学院工学研究科修士課程を開設、電気工学専攻（現電気電子情報工学専攻）、金属工学専攻（現材料工学専攻）、工業化学専攻（現応用化学専攻）を開設

1966 ▶ 昭和41年

埼玉県大宮市（現さいたま市）に大宮キャンパス竣工



東京高等工商学校 建築工学科1期生授業風景（1929年）



1931年頃 電気工学科電気実験



1970年代後半 芝浦校舎正面

1980 ▶ 昭和55年

芝浦工業大学柏高等学校設置

1982 ▶ 昭和57年

芝浦工業大学高等学校を東京都板橋区に移転し、同時に中学校を設置

1991 ▶ 平成3年

システム工学部を開設、3学科を開設

1995 ▶ 平成7年

大学院工学研究科博士（後期）課程、地域環境システム専攻、機能制御システム専攻を開設

1997 ▶ 平成9年

先端工学研究機構を設置

1999 ▶ 平成11年

芝浦工業大学柏中学校を設置

2006 ▶ 平成18年

東京都江東区に豊洲キャンパス開校
芝浦キャンパスは取り壊し、再開発計画に入る

2008 ▶ 平成20年

システム工学部に生命科学科開設
工学部二部を廃止

2009 ▶ 平成21年

東京都港区に芝浦キャンパスを開校。デザイン工学部デザイン工学科を開設。システム工学部をシステム理工学部と名称変更し、併せて数理科学科開設

2011 ▶ 平成23年

大学院工学研究科を理工学研究科と名称変更し、システム理工学専攻を開設

2013 ▶ 平成25年

大宮キャンパスに国際学生寮を開設

2014 ▶ 平成26年

文部科学省スーパーグローバル大学創成支援事業に採択

2017 ▶ 平成29年

デザイン工学部デザイン工学科を再編
大学院理工学研究科に国際理工学専攻を設置
建築学部建築学科を開設
芝浦工業大学中学高等学校を江東区豊洲に移転し、新校舎を開校
併せて芝浦工業大学附属中学高等学校と名称変更

2020 ▶ 令和2年

工学部に先進国際課程を開設

2021 ▶ 令和3年

大学院理工学研究科に社会基盤学専攻、建築学専攻開設

2022 ▶ 令和4年

大宮キャンパスに駅伝部専用学生寮「白雲寮」を開設
豊洲キャンパスに新校舎「本部棟」を開設

2024 ▶ 令和6年

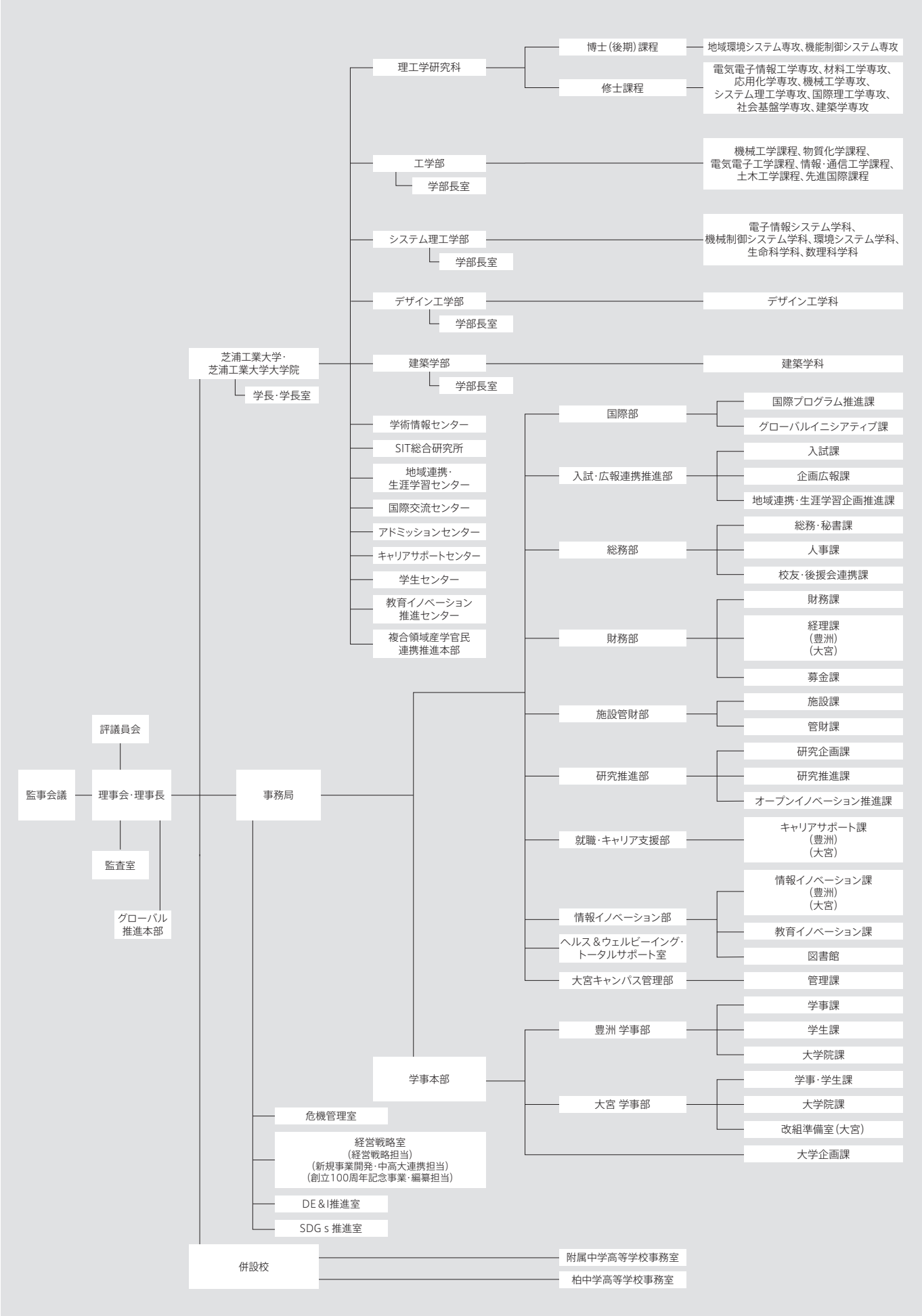
工学部を「学科制」から「課程制」へ移行
熱海セミナーハウスを設置
豊洲キャンパス内に有元史郎 MEMORIAL CORNER を設置



有元家の傳業をたたえ設置された展示施設「有元史郎 MEMORIAL CORNER」

法人組織図

2024年5月1日現在



芝浦工業大学

学長 山田 純

◆工学部

学部長 荻谷 義治
●機械工学課程
●物質化学課程
●電気電子工学課程
●情報・通信工学課程
●土木工学課程
●先進国際課程

◆デザイン工学部

学部長 山崎 憲一
●デザイン工学科

◆システム理工学部

学部長 澤田 英行
●電子情報システム学科
●機械制御システム学科
●環境システム学科
●生命科学科
●数理科学科

◆建築学部

学部長 秋元 孝之
●建築学科

豊洲キャンパス

〒135-8548 東京都江東区豊洲3-7-5
東京メトロ有楽町線「豊洲駅」より徒歩7分
ゆりかもめ「豊洲駅」より徒歩9分
JR京葉線「越中島駅」より徒歩15分

大宮キャンパス

〒337-8570 埼玉県さいたま市見沼区深作307
JR宇都宮線「東大宮駅」よりスクールバス5分、または徒歩20分

SIT ASEAN サテライトオフィス(バンコク)

KMUTT Knowledge Exchange for Innovation Center,
110/1 Krung Thonburi Road, Banglamphulung, Khlongsan,
Bangkok 10250, Thailand

校章



芝浦工業大学の伝統の地、芝浦は東京湾岸に位置します。学生たちは、海から潮の香届く校舎に学びました。1949(昭和24)年、新制大学となった当時に制定された芝浦工業大学の校章は、中心に据えた大文字「大学」の下支えに波動を配したもので、立地に恵まれて躍動、発展する芝浦工業大学の息吹を表現したデザインです。考案したのは、波形が初代学長を務めた松縄信太(元理事長)、大学の字体が事務局長であった三浦元秀(元理事長)。二人の合作です。

芝浦工業大学大学院

◆理工学研究科

研究科長 長谷川 忠大
修士課程

- 電気電子情報工学専攻
- 応用化学専攻
- システム理工学専攻
- 社会基盤学専攻
- 地域環境システム専攻
- 機能制御システム専攻

- 材料工学専攻
- 機械工学専攻
- 国際理工学専攻
- 建築学専攻

博士(後期)課程

SIT総合研究所

所長 西川 宏之

◆SIT総合研究所

- グローバル建築技術研究センター
- サステナブル居住工学センター
- インフラメンテナンスDXセンター
- 地域共創基盤研究センター
- 先進製造プロセス研究センター
- 社会データサイエンス研究センター
- 次世代半導体人材育成センター

芝浦工業大学附属中学高等学校

校長 柴田 邦夫

〒135-8139 東京都江東区豊洲6-2-7
東京メトロ有楽町線「豊洲駅」より徒歩7分
新交通ゆりかもめ「新豊洲駅」より徒歩1分

芝浦工業大学柏中学高等学校

校長 中根 正義

〒277-0033 千葉県柏市増尾700
JR常磐線「柏駅」よりスクールバス15分
東武アーバンパークライン(野田線)「新柏駅」よりスクールバス5分、または徒歩25分

学生・生徒数

●大学	7,794人
●大学院	1,818人
●附属中学校	491人
●附属高等学校	642人
●柏中学校	573人
●柏高等学校	922人

教職員数

●専任教員	大学・大学院	331人
	附属中学校・高等学校	68人
	柏中学校・高等学校	78人
●専任職員	大学・大学院	188人
	附属中学校・高等学校	5人
	柏中学校・高等学校	5人

施設概要

●大学・大学院	土地	203,764.34㎡
	建物	172,030.23㎡
●附属中学校・高等学校	土地	14,499.03㎡
	建物	18,087.80㎡
●柏中学校・高等学校	土地	52,739.68㎡
	建物	15,816.72㎡



芝浦工業大学

芝浦工業大学は、建学の精神を継承し続けるべく

「世界に学び、世界に貢献するグローバル理工系人材の育成」を教育の理念として、
世界で活躍できる人材育成に取り組んでいます。



長期ビジョン

Centennial SIT Action

芝浦工業大学は、創立100周年を迎える2027年に、アジア工科大学のトップ10に入るという目標を設定しました。

世界のグローバル理工系大学に向かって進むために、大学として、次の5項目からなる取り組み課題を据え、Centennial SIT Actionとして宣言しました。

- 1 理工学教育日本一
- 2 知と地の創造拠点
- 3 グローバル理工学教育モデル校
- 4 ダイバーシティ推進先進校
- 5 教職協働トップランナー

Centennial SIT Action

これら取り組みに対し、常に数値データ(KPI: Key Performance Indicator)をもって行程を管理し、PDCA (Plan-Do-Check-Act) サイクル展開による目標達成に臨みます。数値目標には、学生の学修時間数、日本人学生海外経験率、学生の英語力、外国人留学生比率、教員の年間論文件数、企業等との受託・共同研究件数、女性教員比率、女子学生比率などを含んでいます。100周年には真のスーパーグローバル大学たることを目指して、「常に前進する文化の醸成」をモットーに教員と職員と学生が協働で前進していきます。

Centennial SIT Action 100周年(2027年)の芝浦工大

アジア工科大学トップ10



教育の理念 世界に学び、世界に貢献するグローバル理工系人材の育成

大学認証評価



芝浦工業大学は(財)大学基準協会による大学相互評価ならびに認証評価受審の結果、大学基準に適合していると認定されました。

※「認証評価」とは、教育研究水準の向上に資するため、学校教育法第109条に定める、文部科学省の認証を受けた「認証評価機関」による評価を指し、すべての大学はこの評価を法令で定める期間ごとに受審することが義務付けられています。

認証期間：
2019年4月1日～
2026年3月31日

2025年4月、デザイン工学部が新たな3コース制に



2025年度、デザイン工学部では「デザイン思考」「デジタル技術」「協創」という3つのキーワードを中心に、「いかなる分野であれ、学ぶことを厭わず、アイデアを出し、実装に向けて縦横無尽に動けるオールラウンダー人材の育成」を目指し、3コースに改編します。

社会情報システムコース — データを用いて社会問題を解決する —

社会の様々なデータを処理する情報技術やAI技術をベースとし、リサイクルやヘルスケアなどの社会問題を解決できる人材を育成する

UXコース — 新たな体験ができるサービスを —

最新インターフェース技術を用いながら、認知科学に基づき人の行動プロセスを設計し、新たな体験価値をもつサービス開発ができる人材を育成する

プロダクトコース — 形ある製品をデザインする —

人間工学的な分析、製造方法の検討、マーケティング・事業採算性などを考慮しながら、形ある製品の開発ができる人材を育成する

RE:

Shibaura Institute of Technology
College of Engineering and Design
2025 Re:Start_

大学設備



豊洲キャンパス

TOYOSU

ビジネスと暮らしが融合する産業創造の拠点として注目のエリア「豊洲」。そのまちびらきの年となった2006年に誕生したのが豊洲キャンパスです。あらゆる研究設備を備え、またキャンパス中央に大きな階段花壇を設えるなど、開放性を重視したキャンパスは、芝浦工業大学が推進する、地域とのコミュニケーションを通して知識と人間力を育てる実学の実践を支えています。工学部とデザイン工学部の3・4年生と建築学部生および大学院生が学んでいます。



大宮キャンパス

OMIYA

2027年の創立100周年に向けた「Omiya Campus Master Plan 2027」(略称: O-CAMP2027)のもと、各施設を段階的に更新・拡充しています。SDGs、脱炭素などを考慮したキャンパス環境の改善、また社会貢献活動、学外連携、地域連携BCPも視野に入れた公共的価値を有する施設の具現化を目指しています。工学部およびデザイン工学部の1・2年生とシステム理工学部の全学生および大学院生が学び、部活動やサークル活動の拠点にもなっています。

国際学生寮



2013年、グローバル人材の育成を目指す場として、大宮キャンパス(北門)より徒歩2分に開設。

東大宮学生寮



2016年、人間力の育成を目的とした男子学生寮を大宮キャンパスの最寄駅であるJR東大宮駅近くに開設。

白亜寮



2022年春より、駅伝部専用寮として利用開始。チームでの箱根駅伝出場を目指し、生活環境を整えます。

創立100周年記念事業

熱海セミナーハウス設置

2024年3月、創立100周年記念事業の一環として「豊かな自然にふれあいながら豊かな人間教育を」の想いから静岡県熱海市に熱海セミナーハウスを設置しました。JR熱海駅から徒歩5分程の好立地で、天然温泉や地産の食材を生かした朝夕食の提供、バーベキューも楽しめ、学生の研究室ゼミ、クラブ・サークル活動、PBL(Project Based Learning)と多種多様に活用できます。学生・生徒・教職員だけでなく、そのご家族、卒業生、元教職員も利用可能です。フロントロビーには本学評議員でもある和紙デザイナー・堀木エリ子氏の光壁作品「宙」が正面壁面に配され来場者を迎えます。今後は熱海地域での教育研究拠点としての活用が期待されます。

熱海セミナーハウスの概要

名称: 芝浦工業大学 熱海セミナーハウス
構造: 鉄筋コンクリート造陸屋根 6 階建
付帯設備: 食堂、各種研修室、オープンキッチン、屋上ガーデン、大浴場・サウナ、駐車場(10 台)
宿泊室設備: テレビ、冷暖房、冷蔵庫、トイレ、Wi-Fi 完備

所在地: 〒413-0019 静岡県熱海市咲見町 9-18
宿泊定員: 90 名(宿泊室数: 18 室)
泉質: ナトリウム、カルシウム、塩化物温泉



芝浦工業大学附属中学高等学校

2017年4月に開校した新豊洲校舎は最先端のICT教育設備と運動施設を備えています。大学の豊洲キャンパスから徒歩16分の距離にあり、他に例を見ない充実した中高大連携教育が行われています。2021年度には中学校も男女共学となり、2022年度には創立100周年を迎え、ますます教育を充実させていきます。



教育の5つの柱

理工系教育

多様な理工系の専門分野に取り組むサイエンステクノロジーアワーや国語、英語、音楽などすべての学科と科学技術との関わり合いを学ぶショートテックアワーの授業を設けるなど、文理の枠を超えあらゆる分野に精通する「理」「工」の基礎を学び、体験する教育を行っています。

大学連携教育

中学生のものづくり講座、高校入学生向けの「Arts & Tech」では、バスタブリッジやロボットの製作を大学の教授の指導のもと、大学生の補助を受けながら実施されます。また、大学見学会、理系講座など充実したキャリア教育も、芝浦にしかない取り組みといえます。

言語教育

これからの理工系人材に求められる日本語、英語、コンピューター言語の3つの言語力を育てます。特に「論理力・伝達力・分析力」を柱に言葉を操る技術を訓練するランゲージアワーやRuby、C言語といったプログラミングの基礎を学び、レゴマインドストームやドローンを使ったロボット制御を実際に体験する授業は他校でも類をみないプログラムです。

グローバル教育

1994年から実施している中学3年生の海外教育旅行では全員がアメリカで2週間のホームステイを体験し、生きた英語と文化、思考を体感します。高校入学生はカナダで1週間のホームステイをすることで、真のグローバル人材の育成を目指します。

探究教育

探究型学習を進めるための土台作りとして、「IT (Information Technology)」の時間ではデザイン思考、「GC (Global Communication)」の時間ではグローバルな視点で協調性、国際性、多様性を身に付けていきます。いずれもチーム協同型のプロジェクト学習 (PBL) を中心に授業を進め、社会的課題を理工系の知識で解決する力を養います。



芝浦工業大学柏中学高等学校

校地は千葉県柏市に残る中世の城跡である増尾城址公園に隣接した地にあり、歴史と緑豊かな自然環境に恵まれています。2018年度から文部科学省のスーパーサイエンスハイスクール (SSH) に継続指定されており、理数教育や探究学習に力を入れている中等教育機関として教育関係者の高い評価を得ています。2029年には創立50周年を迎えることから記念事業として、新校舎建設プロジェクトもスタートし、情報通信技術の急速な発展とグローバル化に対応した教育環境の整備を着実に進めています。



教育の特色

「創造性の開発と個性の発揮」をベースに特色ある教育を実践

開校以来、創立の理念「創造性の開発と個性の発揮」の下、基礎学力の定着を意識しながら理数教育の充実を図るだけでなく、文理の枠を超えた探究的な学びを重層的、複層的に行うことで生徒の学ぶ力の育成に注力してきました。グローバル教育にも力を入れ、全国に先がけて全校で国際標準のケンブリッジ英検の導入を推進しました。その結果、生徒たちは東京大学や早稲田大学、慶應義塾大学といった難関大や医学部・薬学部、海外大など多彩な進路を選択しています。

SSH指定校としての特徴を生かした教育

文部科学省によるSSHの指定は2004～08年度 (第I期)、2018～22年度 (第II期)、2023年度の第II期経過措置を経て、今年度から第III期に入りました。これまでの教育の蓄積や施設整備によって大学並みの実験設備や走査型電子顕微鏡などが設置されています。第III期指定校の中で理工系大学の併設校は本校しかありません。オンリーワンの特徴を生かし、芝浦工業大学とのより緊密な連携を図り、大学での見学会や先取り講義、研究室での大学教員や大学院生によるサポートを受けた課題研究などを実施してきました。また、協定を結んでいる千葉大学や金沢工業大学、山階鳥類研究所などとの連携を通じ、生徒たちの多彩なキャリアを開発していきます。

文理の枠組みにとらわれない探究教育

AI (人工知能) をはじめとするICT技術の急速な発展と、人生100年時代とも言われる長寿化社会の中で、生涯にわたり学び続ける意欲を持った人材の育成が急務となっています。その源泉となるのは知的好奇心と主体的に学ぶ態度です。本校は創立以来、探究的な学びに力を入れており、近年は毎年のように全国規模のコンテストで入賞し、その成果が出ています。今年度から探究科を設置し、文理の枠にとらわれない学びを深化させ、生徒の知的好奇心の醸成を今まで以上に図ることにしています。



化学実験室

創立50周年に向けた教育環境の整備

過去10年の間に、生徒の教育環境整備のために校地南側に第3グラウンドを造成したほか、体育の授業やクラブ活動を行う第1グラウンドには熱中症対策のためのミスト噴出装置を埋設した人工芝の敷設を行いました。2021年度にはICT教育の基礎となる校舎全域のWi-Fiネットワーク拡充や環境に優しい照明のLED化にも着手してきました。2029年の創立50周年に向け、新校舎建設プロジェクトも動き出しました。SDGsの観点から既存の校舎の一部をリニューアルしながら、新たな時代の人材育成にマッチした学校づくりに突き進んでいきます。

2023年度事業活動収支計算書

当該年度の教育活動収支、教育活動外収支、特別収支に対応する事業活動収入及び事業活動支出の内容、及び基本金組み入れ後の収支の均衡の状態を明らかにしています。

(単位：百万円)

科 目			予 算	決 算	差 異	前年度決算
教育活動収支	事業活動収入の部	学生生徒等納付金	16,739	16,781	△ 42	16,833
		手数料	993	999	△ 6	994
		寄付金 1	339	358	△ 19	323
		経常費等補助金	2,687	2,743	△ 55	2,498
		付随事業収入	931	1,171	△ 240	910
		雑収入	741	910	△ 169	821
		教育活動収入計	22,430	22,962	△ 532	22,379
	事業活動支出の部	人件費 2	9,303	9,292	11	8,954
		教育研究経費 2	9,943	9,425	518	8,986
		管理経費 2	2,097	2,074	22	1,904
		徴収不能額等	0	0	0	24
		教育活動支出計	21,342	20,792	550	19,868
教育活動収支差額			1,087	2,170	△ 1,082	2,511
科 目			予 算	決 算	差 異	前年度決算
教育活動外収支	収事業活動の部	受取利息・配当金	27	28	△ 1	18
		その他の教育活動外収入	514	513	0	404
		教育活動外収入計	541	541	0	422
	支事業活動の部	借入金等利息	106	46	60	55
		その他の教育活動外支出	0	0	0	0
		教育活動外支出計	106	46	60	55
教育活動外収支差額			435	495	△ 60	367
経常収支差額			1,522	2,664	△ 1,142	2,877
科 目			予 算	決 算	差 異	前年度決算
特別収支	収事業活動の部	資産売却差額	0	0	0	245
		その他の特別収入 1	209	228	△ 19	386
		特別収入計	209	228	△ 19	631
	支事業活動の部	資産処分差額 2	59	73	△ 15	434
		その他の特別支出 2	0	220	△ 220	0
		特別支出計	59	294	△ 235	434
特別収支差額			151	△ 65	216	197
基本金組入前当年度収支差額			1,673	2,599	△ 926	3,075
基本金組入額合計 1			△ 3,750	△ 4,004	254	△ 10
当年度収支差額 3			△ 2,077	△ 1,405	△ 672	3,065
前年度繰越収支差額			△ 6,711	△ 6,711	0	△ 10,376
基本金取崩額			0	0	0	600
翌年度繰越収支差額 3			△ 8,788	△ 8,116	△ 672	△ 6,711
(参考)						
事業活動収入計			23,180	23,731	△ 551	23,432
事業活動支出計			21,506	21,132	375	20,357

(注) 表中の数字が四捨五入されている場合、合計は数値の総和と必ずしも一致しません。

POINT 1

寄付金：特別寄付金に加え、現物寄付13百万円の金額を計上しています。なお、施設設備の取得に使途を特定した寄付は、特別収支のその他の特別収入に計上されています。

基本金組入額：内訳は以下のとおりです。

- ①第1号基本金組入額：△2,947百万円
施設設備取得に係る組入額3,009百万円と過年度取得した資産に係る借入返済に伴う組入額1,038百万円から、借入金等1,100百万円を除いたものを組入れました。
- ②第2号基本金組入額：△800百万円
先行組入れとして、100周年記念事業資金(16年計画の12年目)800百万円を組入れました。
- ③第3号基本金組入額：△20百万円
各種奨学事業経費、顕彰事業経費の残額、及び同事業への寄付金を組入れています。
- ④第4号基本金組入額：△257百万円
学校法人の円滑な運営に必要な運転資金として組入れています。

POINT 2

人件費：退職給与引当金の繰入不足額なども計上されています。
教育研究経費、管理経費：資金収支計算書の教育研究経費支出、管理経費支出に、減価償却額(各2,577百万円、168百万円)等が計上されています。
その他の支出(資産処分差額)：既存の建物・構築物、機器等の除却処理を中心に以下のとおり計上しました。
①教育研究用機器備品処分差額 52百万円
②図書処分差額 18百万円 等を計上
その他の支出(特別支出)
①過年度修正額 220百万円 等を計上

POINT 3

当年度収支差額：教育活動収支差額が予算比約11億円の収支改善となったこと、教育活動外収支差額が同比1億円改善したことなどにより、予算比約7億円の収入超過額の増加となりました。
翌年度繰越収支差額：＝当年度収支差額＋前年度繰越収支差額＋基本金取崩額